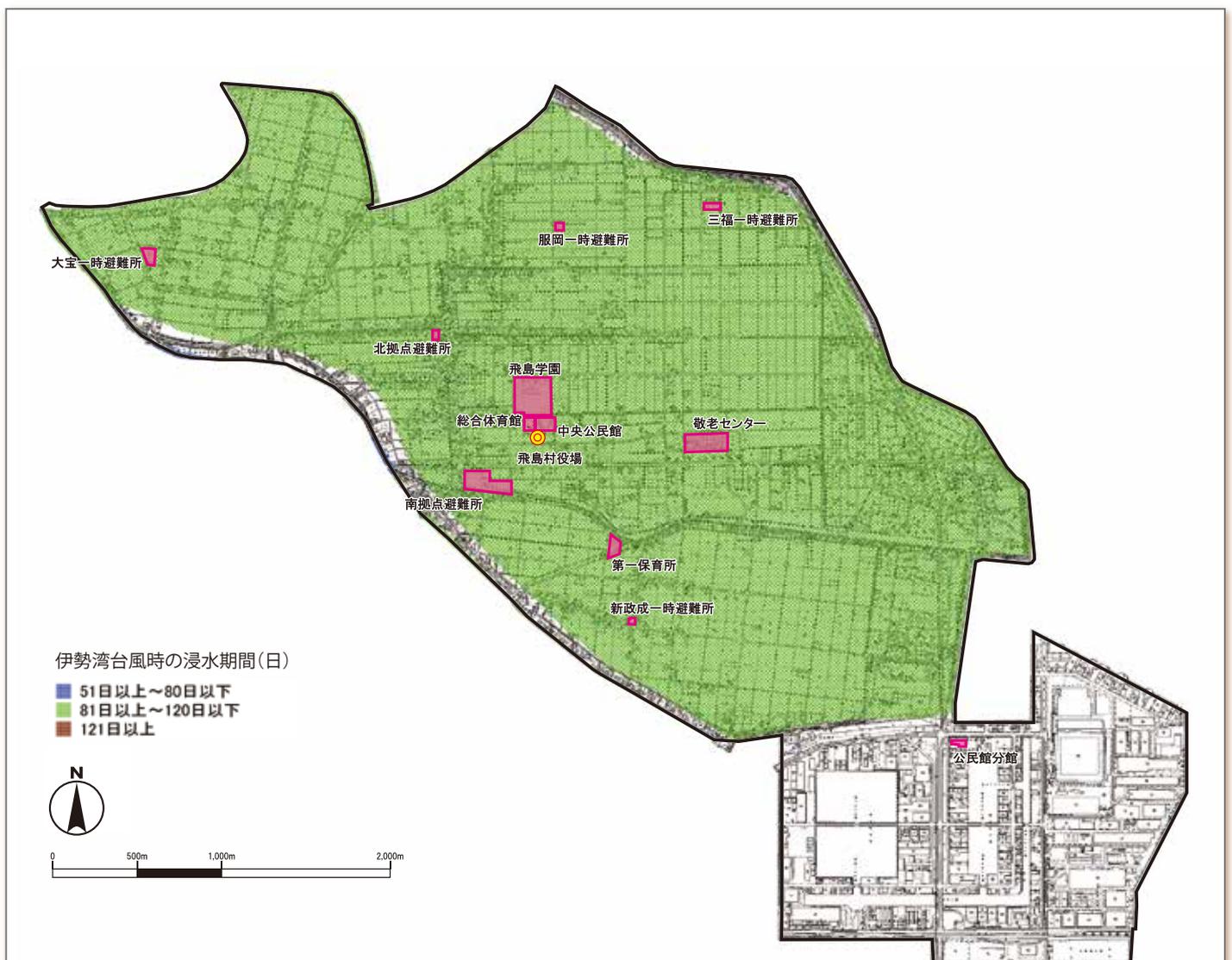




風水害の被害想定

- 1 本村はいわゆる0メートル地帯と呼ばれる低湿地地帯で、水害に対して極めてぜい弱です。
- 2 激しい暴風雨と高潮により短時間で大規模な浸水が発生する可能性があります。
(事例：伊勢湾台風で人的・物的共に大きな被害が発生)
- 3 浸水した場合、浸水期間が長期になると予想されるため、避難や復旧・復興に支障をきたすことが想定されます。(事例：伊勢湾台風の浸水期間は約120日)

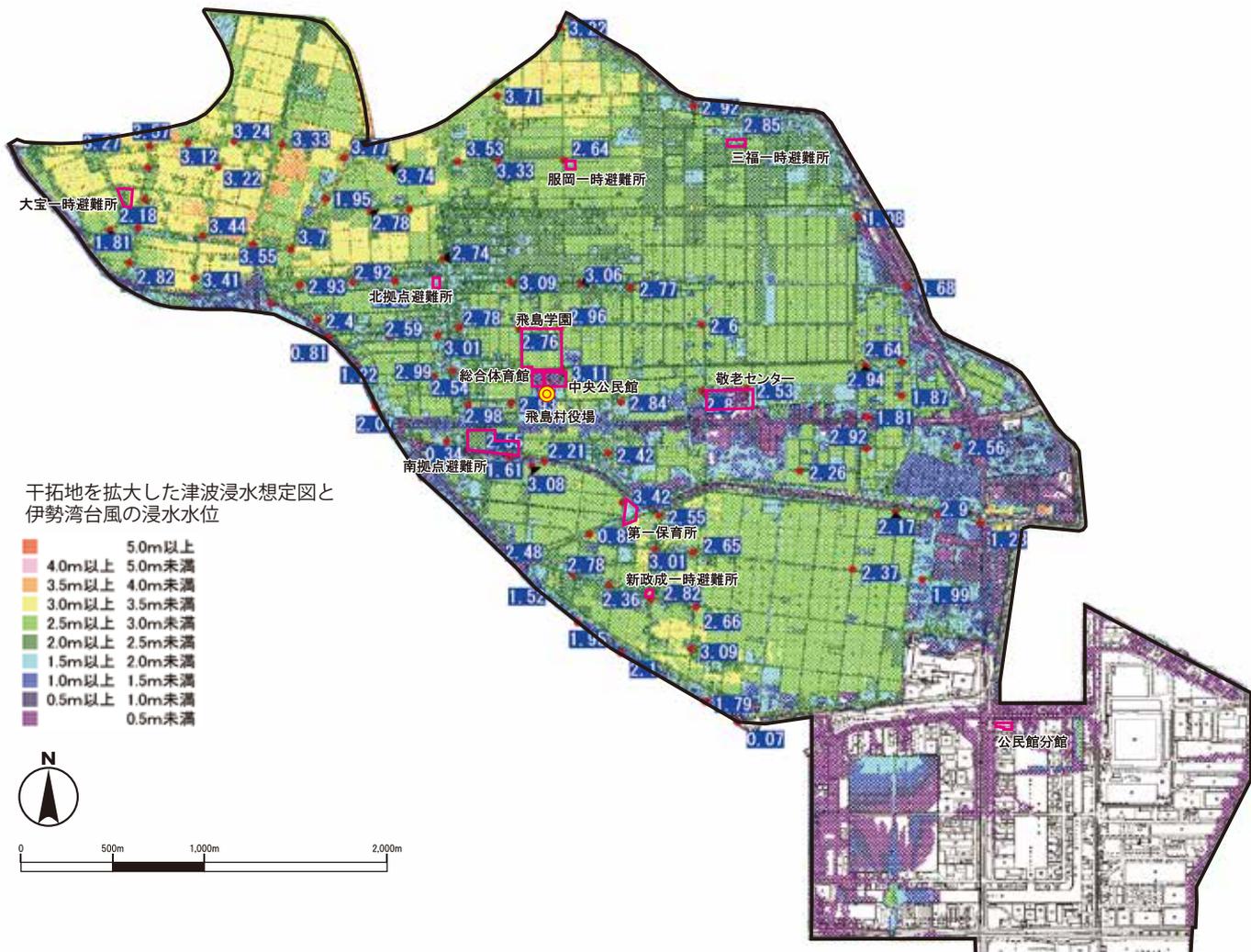
伊勢湾台風被害時の浸水期間



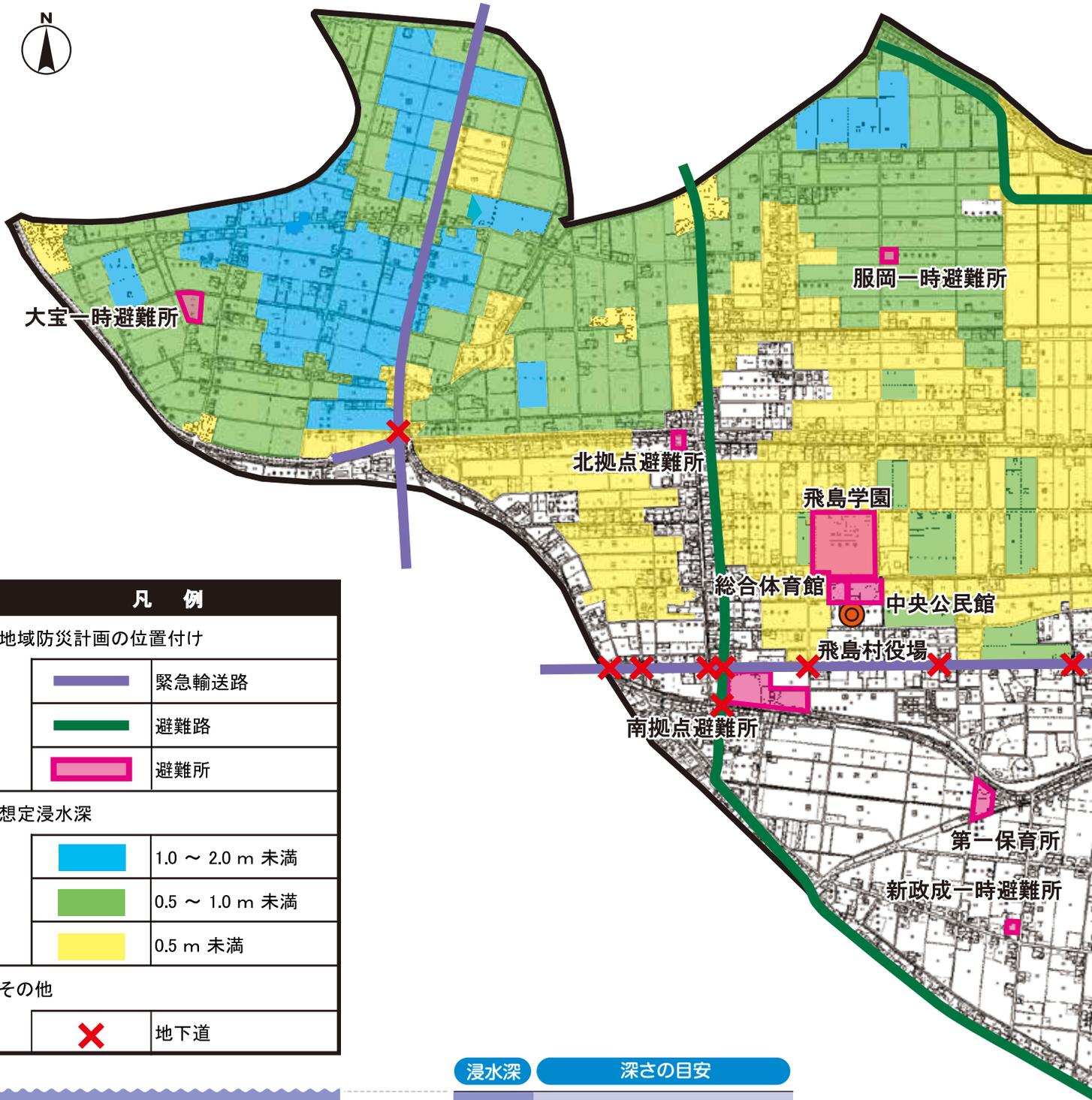
昭和34年 伊勢湾台風による被害写真



伊勢湾台風被害時の浸水深



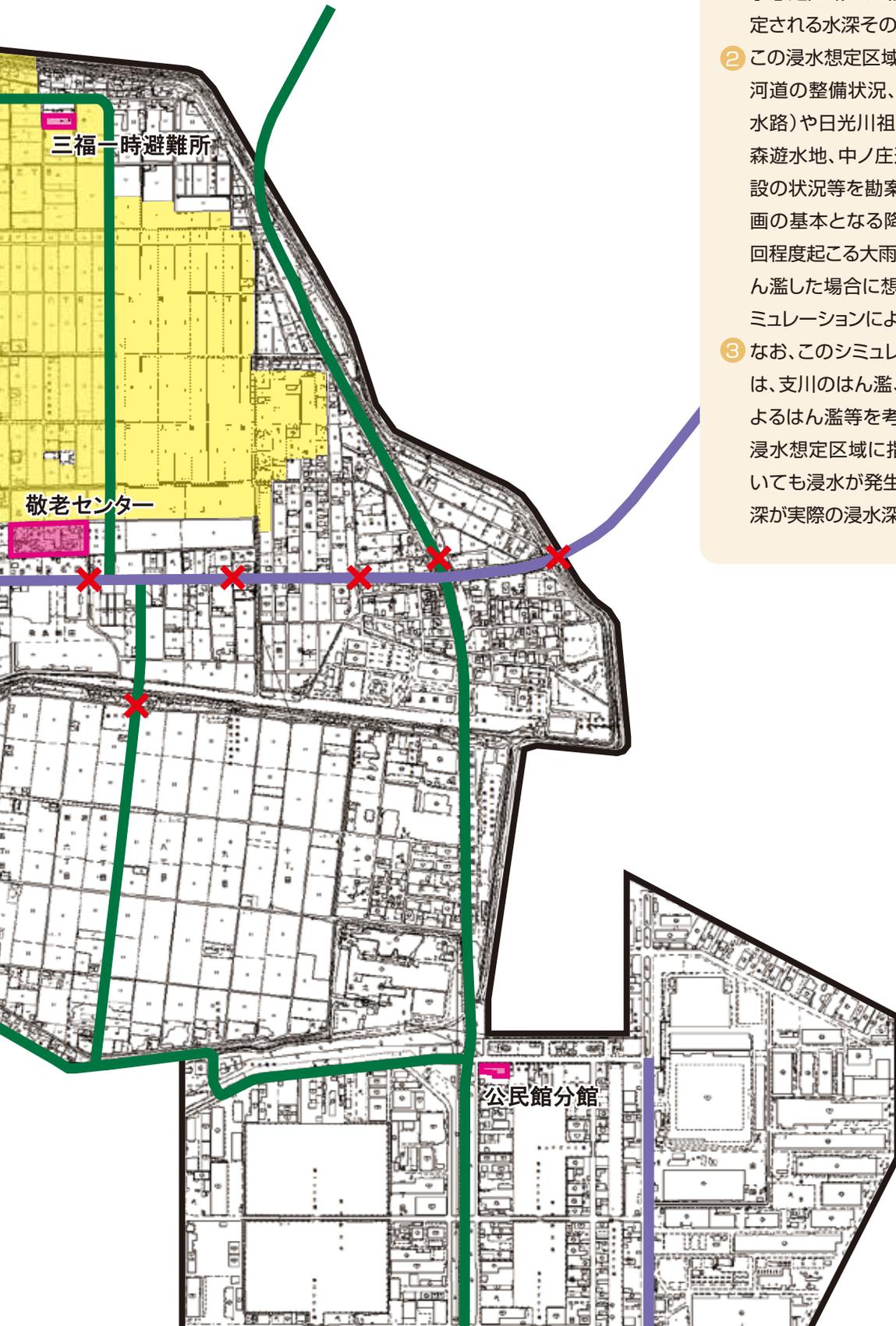
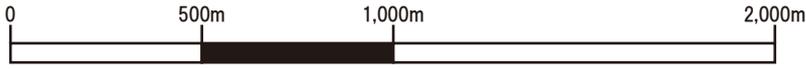
日光川浸水想定区域図



凡例	
地域防災計画の位置付け	
	緊急輸送路
	避難路
	避難所
想定浸水深	
	1.0 ~ 2.0 m 未満
	0.5 ~ 1.0 m 未満
	0.5 m 未満
その他	
	地下道



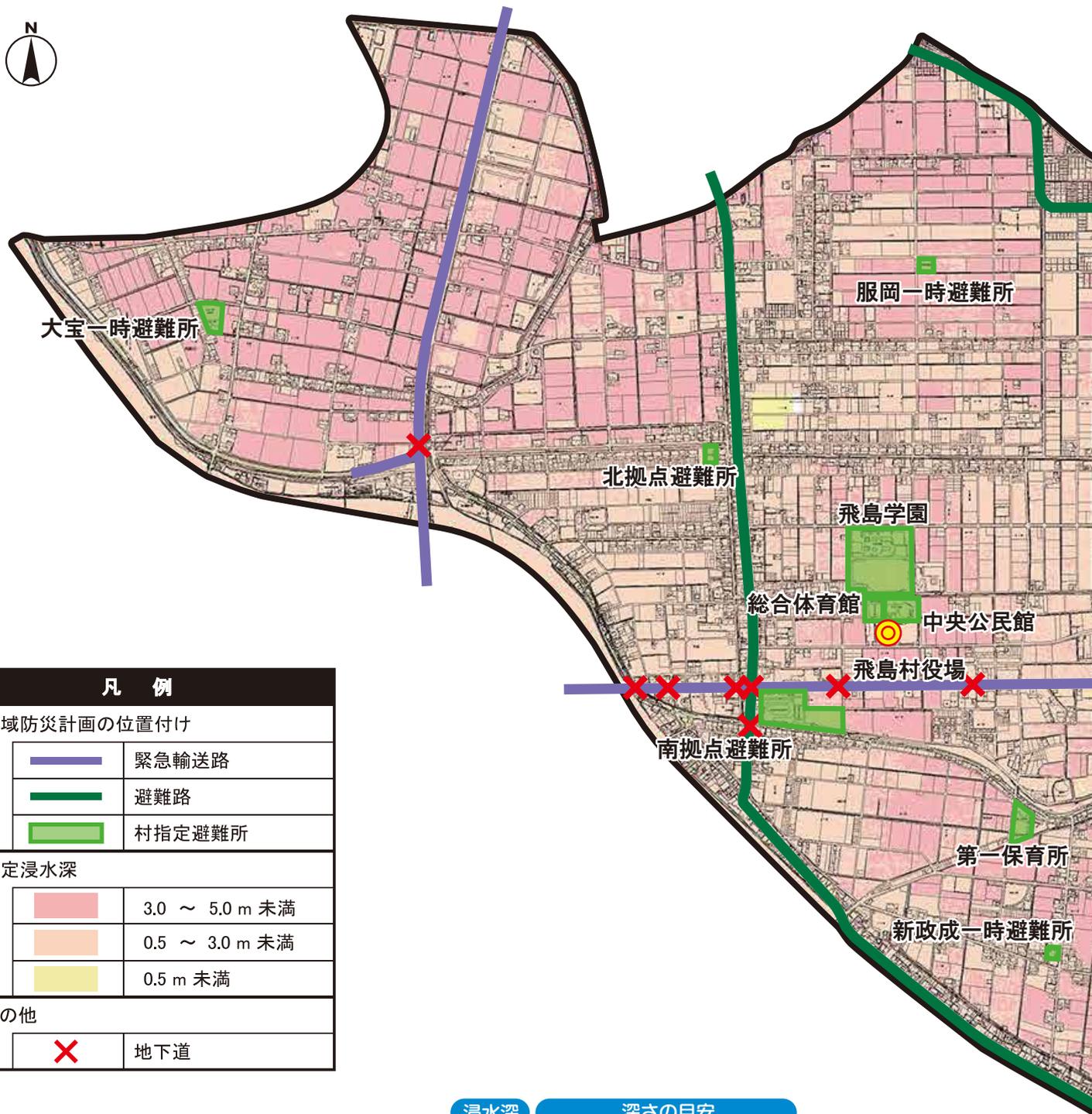
浸水深	深さの目安
5m以上	下記以上
5m	2階の天井下まで浸かる程度
2m	1階の天井下まで浸かる程度
1m	1階の床下まで浸かる程度
0.5m	1階の床下まで浸かる程度



- ① この図は、日光川水系日光川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深その他を示したものです。
- ② この浸水想定区域等は、指定時点の日光川の河道の整備状況、日光川玉野放水路(3号放水路)や日光川祖父江放水路(4号放水路)、森遊水地、中ノ庄遊水地、奥田遊水地等の施設の状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね100年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、川がはん濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
- ③ なお、このシミュレーションの実施に当たっては、支川のはん濫、想定を超える降雨、高潮によるはん濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

愛知県 平成23年6月

木曾川洪水浸水想定区域図

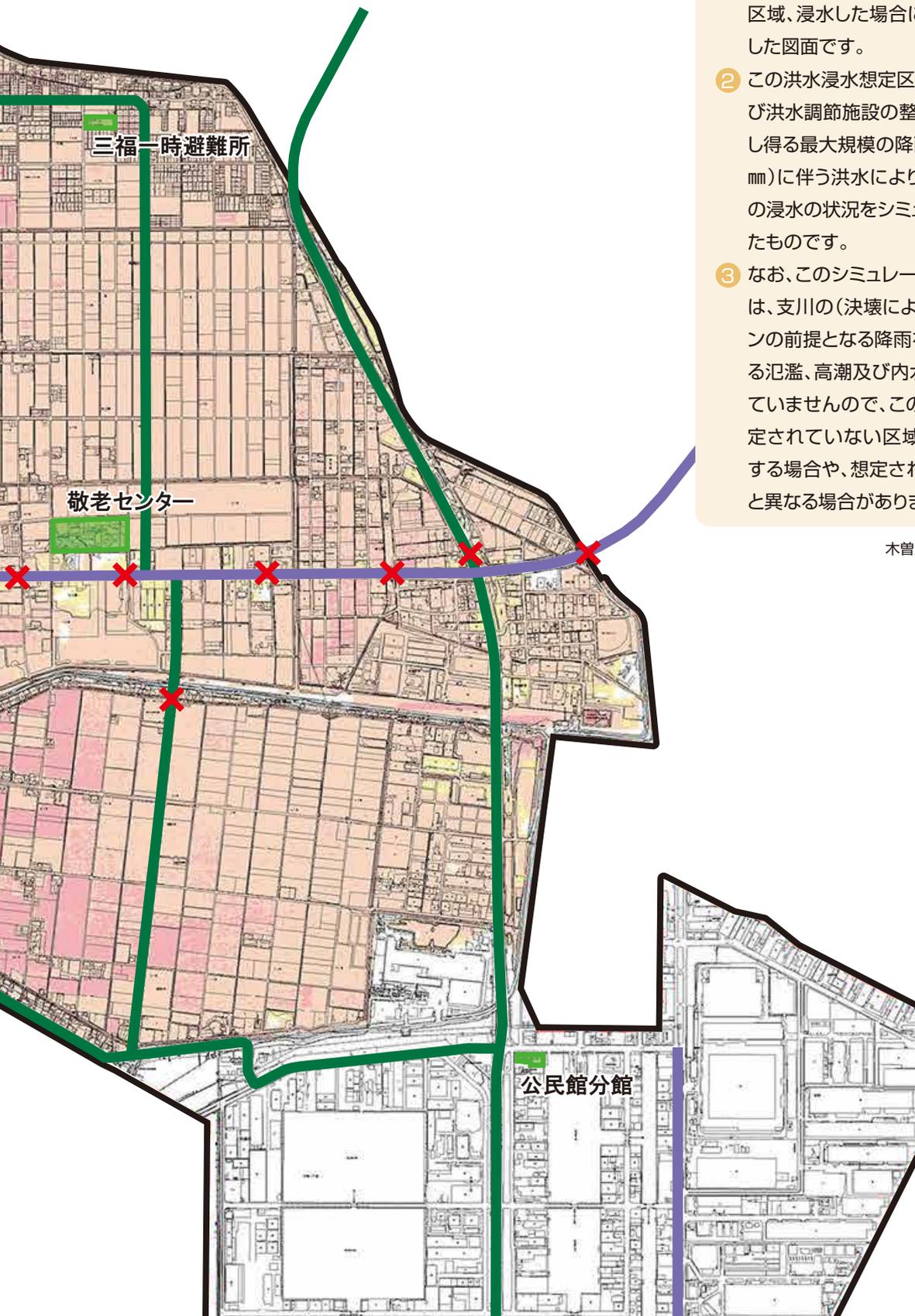
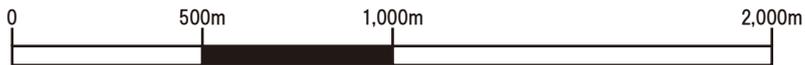


凡 例	
地域防災計画の位置付け	
	緊急輸送路
	避難路
	村指定避難所
想定浸水深	
	3.0 ~ 5.0 m 未満
	0.5 ~ 3.0 m 未満
	0.5 m 未満
その他	
	地下道



浸水深	深さの目安
5m以上	下記以上
5m	2階の天井下まで浸かる程度
3m	2階の床下まで浸かる程度
0.5m	1階の床下まで浸かる程度

日頃の備え



- ① この図は、木曽川水系木曽川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- ② この洪水浸水想定区域図は、木曽川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨(2日間の総雨量527mm)に伴う洪水により木曽川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- ③ なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

木曽川上流河川事務所 平成28年12月

地震の被害想定

- 1 飛島村における地震動は、村内において最大震度 7 と予想されます。
- 2 液状化の危険度は、村内全域において極めて高いと予想されます。

(平成 26年 3月 愛知県)

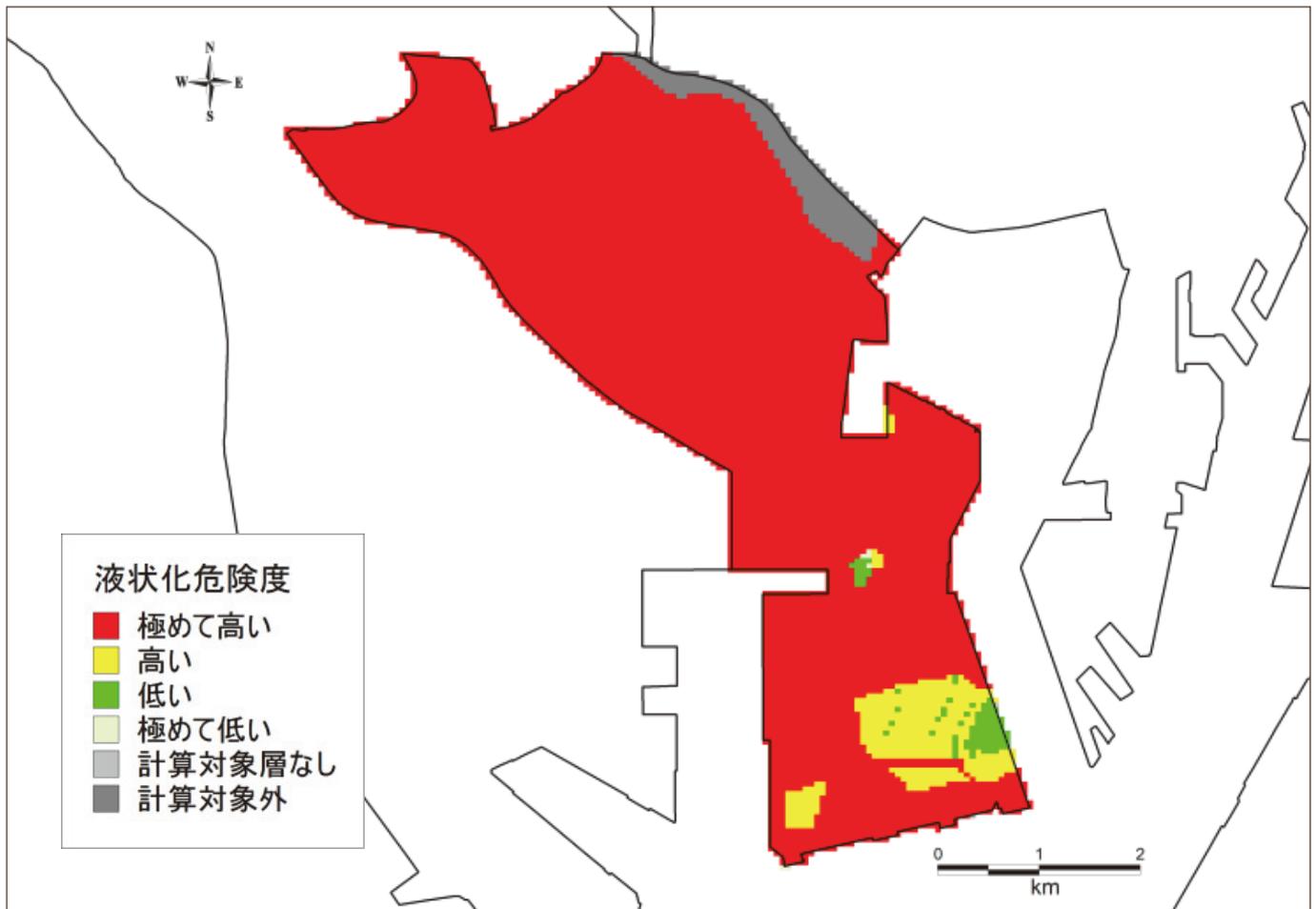
津波の被害想定

- 1 浸水域は村内の北部のほぼ全域に及びます。
- 2 避難所の周辺は「2～5m」の浸水深となります。

※東日本大震災では、津波により自動車やコンテナが漂流しました。

(平成 26年 11月 愛知県)

液状化



※危険度判定には地盤改良等の液状化対策効果は見込んでいません。

津波浸水深



凡例	
最大浸水深(m)	
■ (Dark Red)	10 ~ 20
■ (Red)	5 ~ 10
■ (Light Red)	2 ~ 5
■ (Orange)	1 ~ 2
■ (Yellow)	0.3 ~ 1
■ (Green)	0.01 ~ 0.3
■ (Blue)	村指定避難所
■ (Light Blue)	協定を結んだ津波一時避難所



- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年度法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件と差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を图示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- この図面は、地盤面を基準にどれだけ浸水しているかを表示しており、地下街や地下鉄などの地下空間、管渠への津波の流入を考慮していません。このため、地下への出入口をはじめ、地下につながっているビルの階段、エレベーター、換気口などが、浸水深より低い位置にある場合、これらを伝って津波が地下空間へ流入する恐れがあります。

愛知県 平成26年11月



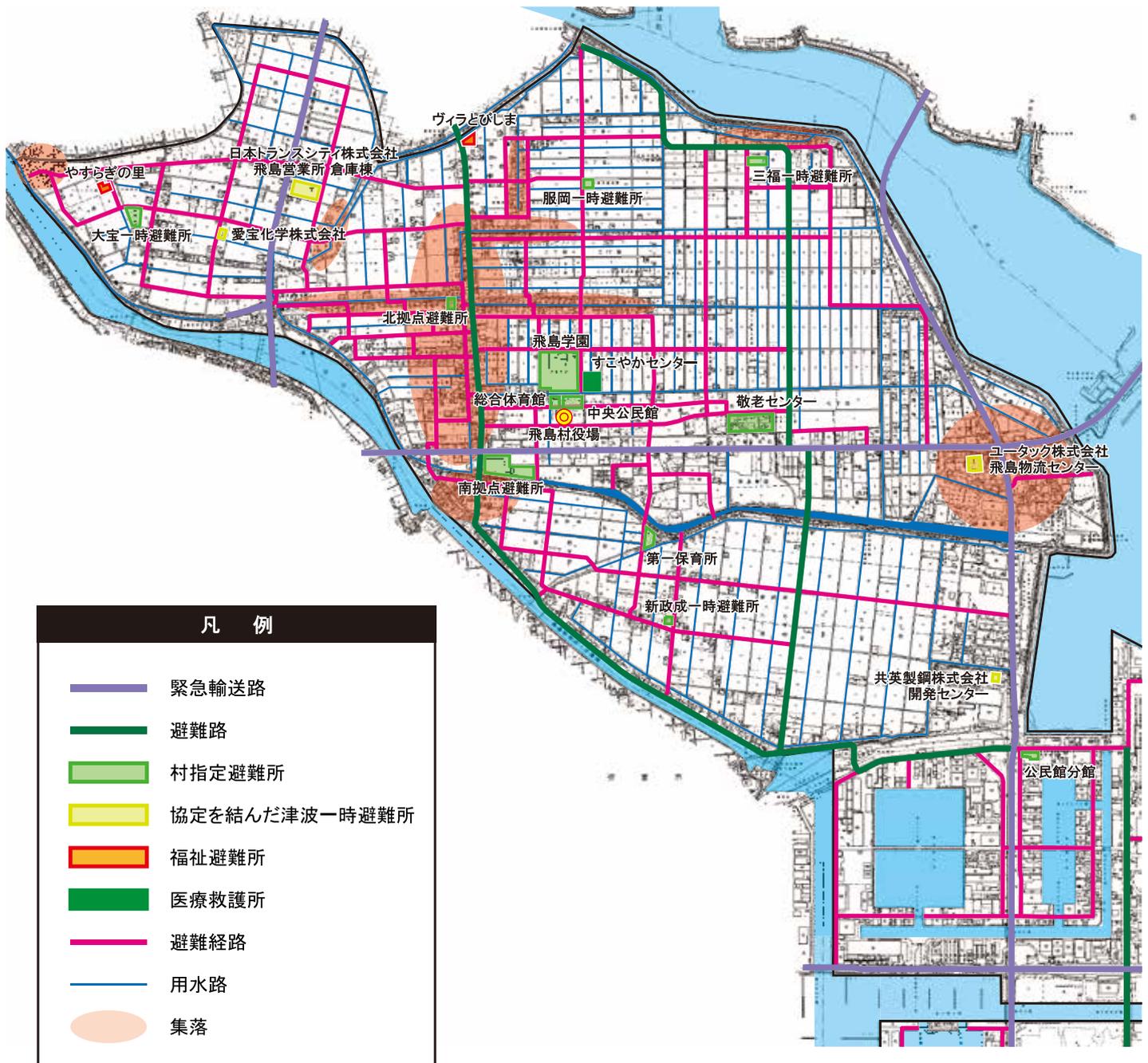
日頃の備え

避難所と避難ルート

確認のポイント

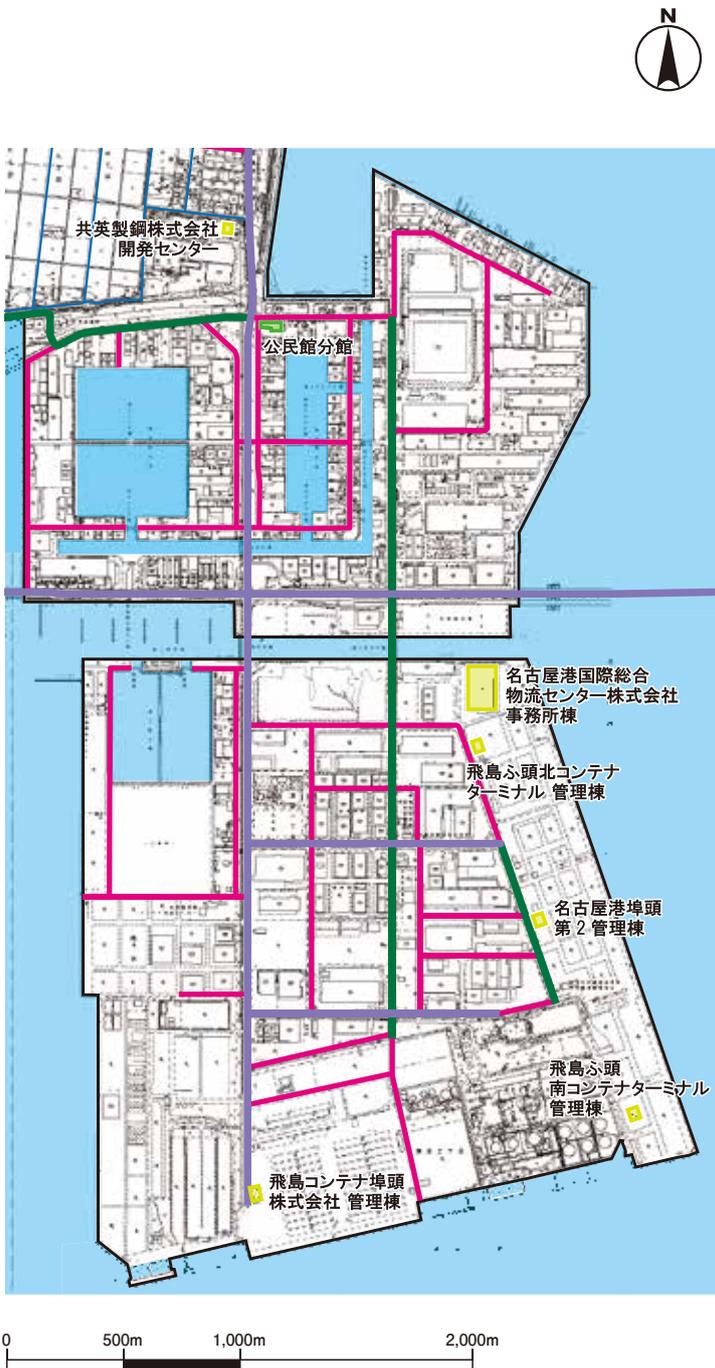
災害はいつ起こるかわかりません。普段から、避難所がどこにあるのか、そこに行くためにはどのように避難すればよいかを確認しておきましょう。

また、災害時には、目指す避難所への避難ルートが使えなかったり、移動するのに危険を伴うような場合も考えられます。そのような場合にも対応できるように、複数の避難ルートや別の避難所についても確認しておきましょう！



※避難経路は、自主防災会議（平成 30 年度開催）において地域の代表の方々の意見を踏まえ作成した結果

風水害・地震・津波災害時避難所



	避難所	電話番号	風水害	地震	津波
村指定避難所	飛島学園	0567-52-4001	○	○	○
	総合体育館	0567-52-3351	○	○	○
	中央公民館	0567-52-3351	○	○	○
	南拠点避難所	0567-55-0055	○	○	○
	北拠点避難所	0567-52-1011	○	○	○
	三福一時避難所	0567-52-1710	○	○	○
	大宝一時避難所	0567-52-0731	○	○	○
	新政成一時避難所	0567-55-1901	○	○	○
	服岡一時避難所	0567-52-1529	○	○	○
	敬老センター	0567-52-3185	○	○	○
	第一保育所	0567-55-0315	○	○	×
	公民館分館	0567-55-1071	○	○	○
協定を結んだ津波一時避難所	名古屋港国際総合流通センター株式会社 事務所棟	0567-55-3130	×	×	○
	共英製鋼株式会社 開発センター	0567-55-1088	×	×	○
	ユータック株式会社 飛島物流センター	0567-55-2201	×	×	○
	NCBコンテナターミナル 管理棟	052-398-1033	×	×	○
	飛島ふ頭北コンテナターミナル 管理棟	0567-55-2666	×	×	○
	飛島ふ頭南コンテナターミナル 管理棟	0567-55-2666	×	×	○
	飛島コンテナ埠頭株式会社 管理棟	0567-57-2200	×	×	○
	愛宝化学株式会社	0567-52-1501	×	×	○
	日本トランスシティ株式会社 飛島営業所 倉庫棟	0567-52-4678	×	×	○
	飛島コンテナ埠頭株式会社 管理棟	0567-52-4678	×	×	○
福祉避難所	やすらぎの里	0567-52-1800	○	○	○
	ヴィラとびしま	0567-52-2290	○	○	○
救護所	すこやかセンター	0567-52-1001	○	○	○

2019年4月

家族との通信手段

災害発生時には電話回線が混雑します。家族との通信手段は一つではなく、複数の手段を確保しておきましょう。また、被災した地域外への電話は比較的つながりやすいため、離れて暮らす親戚とも連絡先を交換しておきましょう。

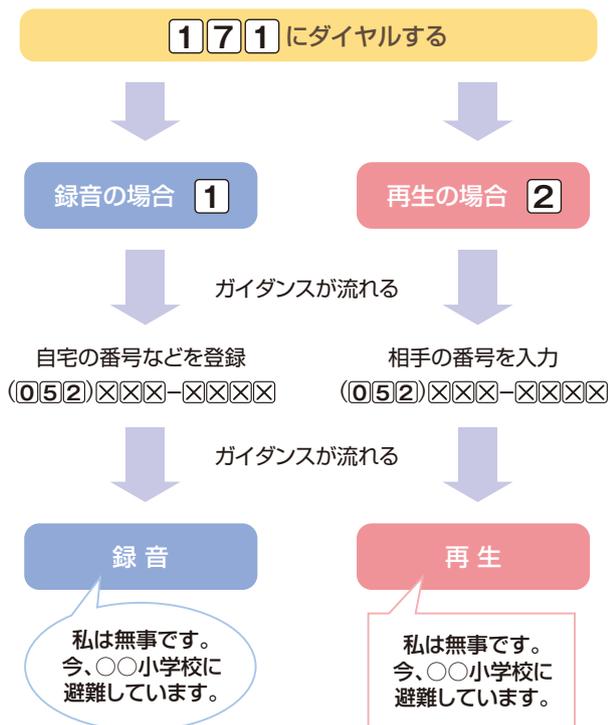
災害用伝言ダイヤル171

災害用伝言ダイヤルは、被災地から自分の安否や所在を音声で録音することができます。また、家族や知人がその音声を聞くことができます。「いない(171)?」で覚えてください。

災害用伝言板

大規模な災害が起こると、被災者の安否情報などを10件まで100文字以内で登録することができます。お使いの携帯電話会社でそれぞれ開設されますので、確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル171



【問い合わせ先】 局番なしの116番

【詳細】

● <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

● <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

災害用伝言板



NTTドコモ <http://www.nttdocomo.co.jp/>

au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

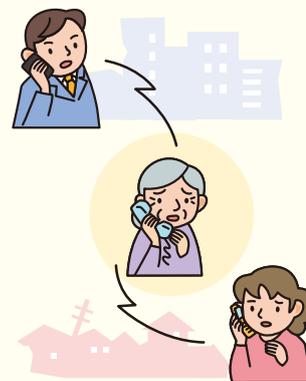
ソフトバンクモバイル <http://mb.softbank.jp/mb/service/dengon/>

公衆電話

災害時には、公衆電話が無料で使えるようになります。小銭やテレホンカードがなくても通話することができ、優先的に繋がるようになっています。

連絡中継地点

電話回線が混雑し電話がかかりにくい状況でも、被災地から被災地以外の場所では比較的電話がかかりやすくなっています。被災地から離れた場所に住む親戚や知人に事前に連絡中継地点になってもらうことを確認しておき、災害時にはその人を経由して家族の安否を確認してもらう方法もあります。



その他の連絡手段

▶ SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）

インターネット上でのコミュニティ型のウェブサイト。Facebook や Twitter など自身の情報を世界中の多くの人に発信することができます。安否確認に使用したり、被災地の情報を載せておいたりすることもできます。

【情報の取り扱いに注意】

SNSなどによって誰でもどこでも簡単に情報を入手できるようになりましたが、一部の心無い人がデマの情報を流したり、詐欺を企てたりすることが考えられます。情報の取り扱いは細心の注意を払ってください。

飛島村などからの情報発信

本村では、飛島村ホームページ、同報無線、Jアラートなどによって、災害時の情報発信を行います。その他にも、災害に関する情報を迅速、的確にお伝えるために、「飛島村防災メール」を開設しています。携帯電話のメールアドレスを登録することで、登録者に飛島村から災害情報、避難場所、救急医療などの情報を一斉にお伝えしています。

メールの登録方法

携帯電話で、下記 URL「飛島村防災メール」にアクセスをして、登録をお願いします。

▶ 飛島村防災メール

（携帯用）<https://service.sugumail.com/tobishima/>

（PC用）<https://service.sugumail.com/tobishima/member/>

- 迷惑メール防止対策をされている方は、受信できるドメインとして「@sg-m.jp」を許可してください。
- URL 付きメールの受信を許可してください。

村内に同報無線を設置しており、各種情報発信をしておりますが、聞き逃したときや聞き取りにくいときなどは、放送した内容を電話で確認することができる「音声自動応答サービス」も開設しました。



QRコード

音声自動応答サービス（電話番号） 0567-52-1451

- おかけ間違いのないようにお願いします。
- 通話料金がかかります。
- 混雑時には通話中となることがありますので、しばらくしてから再度おかけ直してください。

エリアメール・緊急速報メール

気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、特別警報、国や地方自治体が配信する災害・避難情報を特定エリアにいる方に一斉にお知らせするサービスです。

正しい 情報源

- 正しい情報とは発信源が確かな情報です。
- 官公庁が発信する警報、注意報
- テレビ、ラジオ、新聞など、報道各社が発信するニュース
- 地域のコミュニティ、NPOなどが発信するニュース



非常時持ち出し品・非常備蓄品チェックリスト

非常持出品

非常時持ち出し品は、災害発生時最初に持ち出すものです。必要最低限のものだけを選び、1つにまとめて避難の通り道や寝室の枕元に置いておきましょう。また、少なくとも1年に一度は点検して、飲料水・食料品は定期的買い替えましょう。



✓ 生活用品

- ヘルメット（防災ずきんなどの頭を保護できるもの）
- 衣類・下着 タオル 靴・スリッパ（屋内用）
- ティッシュ ビニール袋 軍手
- 懐中電灯 ろうそく、ライター、マッチ
- 携帯ラジオ 乾電池（多めに準備しておく）



✓ 貴重品

- 現金 通帳・印鑑
- 権利証書 健康保険証など



✓ 非常食関係

- 飲料水（ペットボトル入りのものが便利）
- 乾パン・缶詰（火を通さず食べられるもの）
- 紙皿など食器
- ナイフ、缶切り、栓抜き
- はし、スプーン、フォーク



✓ 救急医療品

- 常備薬
- 傷薬・包帯・ばんそうこう
- 目薬・かぜ薬・胃腸薬など



非常備蓄品

非常備蓄品は災害発生から復旧までの数日間を支えるものです。災害が発生すると数日間は食料、水などは手に入れることができません。その間、生活に必要なものを事前に準備しておきましょう。最低3日以上は備蓄が必要です。特別に備えるのではなく、日頃から食べているものや使っているものを少し多めに購入し、食べた分・使った分をその都度補充しながら日常的に備蓄するローリングストックという方法で備えると、無理なく消費期限切れなどの無駄のない備えができます。

✓ 生活用品

- 毛布・寝袋
- 新聞紙
- 洗面用具
- 鍋・やかん
- ウェットティッシュ、トイレトペーパー
- 割りばし、紙コップ、紙皿など
- 水の汲み置き（20L程度）
- 簡易トイレ
- ゴミ袋（大きめのもの）
- ガムテープ
- LEDランタン
- 工具（ロープ、バール、スコップなど）



✓ 非常食

- 飲料水（1人1日あたり3L必要）
- 保存食（缶詰、レトルト食品、インスタント食品、サプリメントなど）
- ビスケットなどの菓子類
- 調味料など



✓ 燃料

- カセットコンロ（燃料なども多めに準備）



▶ その他にあったら便利なもの

ラップ、使い捨てカイロ、筆記用具（油性の太字ペンなど）、雨具、水のいらぬシャンプー・歯磨き粉

▶ 乳児のいる家庭

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、洗浄綿、おんぶひも、母子手帳、ベビー毛布

▶ 妊婦のいる家庭

脱脂綿、ガーゼ、T字帯、新生児用品

▶ 介護者のいる家庭

紙おむつ、補助具の予備、常備薬、障害者手帳

「おくすり手帳」 が役立ちます

「おくすり手帳」には、これまでに処方されたお薬の名前、飲む量・回数、アレルギー歴、副作用歴などが記録されています。現在使っているお薬が確認できれば、適切なお薬を処方してもらうことができます。

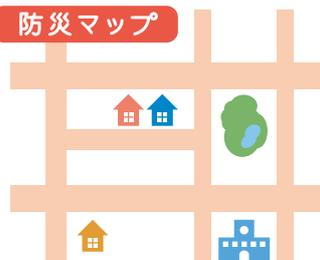
東日本大震災でも「おくすり手帳」や「薬剤情報提供書」などを持っていたおかげで治療が継続できたケースが多くありました。緊急時に備えて「おくすり手帳」を携帯しましょう。



わが家の安全MAP

家族で家の中の安全箇所や危険箇所、出口までの経路を確認し「わが家の安全 MAP」を作成しましょう。

防災マップ



「わが家の安全 MAP」作成手順

- 1 自分の家の間取りを確認してください。
- 2 P15 から P24 のハザードマップなどを確認し、災害が起きたときの状況を確認しましょう。
- 3 危険箇所では、家具の転倒防止対策やガラスの飛散防止対策を行いましょ。室内の安全対策については、P8 を参考にしてください。
- 4 P27、28を参考に非常持出品、非常備蓄品をチェックして、確実に持ち出せる場所に保管しましょう。
- 5 玄関やベランダなど、出口までの経路を確保しましょう。

チェックポイント

家具の置き場所や置き方を見直し、室内での安全を確保しましょう。



- 寝室や幼児、高齢者が長時間を過ごす部屋には家具を置いていませんか？
- ベッドや布団の位置が家具の転倒方向と重なっていませんか？
- 部屋の出入り口付近や廊下、階段などに家具や荷物などを置いていませんか？
- 火気の周辺に家具を置いていませんか？
- 家具の上にガラス製品やテレビなどの落下すると危険なものを置いていませんか？
- 軽いものを上のほうに、重いものを下のほうに収納し、倒れにくくしてありますか？
- 前のめりより、後ろもたれ気味に家具を置いてありますか？



わが家の避難MAP

家族で避難場所の位置、避難場所までのルートを確認し「わが家の避難MAP」を作成しましょう。

「わが家の避難MAP」作成手順

- 1 自分の家や周辺の状況を確認してください。
- 2 P15 から P22 のハザードマップなどを確認し、地震・津波が起きたときの状況を確認しましょう。
- 3 避難先を決め、避難先の位置に印をつけましょう。
- 4 P23、24 を参考に、自分の家から避難場所までの避難経路を決めましょう。
- 5 避難経路を実際に歩いて、改善すべき点がないか確認しましょう。
- 6 改善すべき点が見つければ避難MAPに記入しましょう。
- 7 これまでの内容を参考にしながら、いろいろな状況を想定して避難MAPを作成してみましょう。(天候、季節、時間帯、家族がバラバラの状況など)
- 8 家族がバラバラになったときの集合場所と連絡手段を確認しましょう。家族の連絡先を下の表に記入しておきましょう。

名 前	連絡先	避難する場所	家族の集合場所

